「子ども大学はにゅう」を開催して

牛 込 彰 彦(こども学科 教授)

平成24年度、「羽生市学びあい夢プロジェクト」の一環として実施した「子ども大学はにゅう」について、 その概要を報告する。

1. 趣旨

「羽生市学びあい夢プロジェクト」の一環として、子どもの知的好奇心を満足させる学びの機会を提供することにより子どもたちの健全育成を図るため、県、関係機関が連携し、子ども大学はにゅうを開催する。

2. 主催及び関係協力諸機関等

主 催:子ども大学はにゅう実行委員会

協力組織:(学)埼玉純真短期大学・羽生市教育委員会・埼玉県教育局・(社)羽生青年会議所・羽生 市青少年相談員協議会・(有)シガエ芸・(株)アロハガス・まつのや・(株)BiZ

3. 実施方法

(1)募集対象および人数

小学校4年生から6年生・52名

(2)募集方法:

市広報で周知するほか、小学校を通じ対象学年全員に募集案内を配布。

(3)申込方法:

子ども大学はにゅう参加申込書に必要事項を記入の上,羽生市教育委員会生涯学習課へ提出(郵送・FAX可)。定員を超えた場合は抽選。

(4)参加費:

1,000円(材料費·保険料)

(5) その他:

子どもの送迎については、市内会場に限り保護者が責任を持って行う。 各回とも保護者の見学参加を可とする。

4. 学習プログラム

第1日 9月8日(十) 場所:埼玉純真短期大学

·入学式 学 長:藤田利久(埼玉純真短期大学学長)

副学長:小島敏之(羽生市教育長)

実行委員長:伊藤道雄(埼玉純真短期大学教授)

1時間目:「思い切り遊んでいますか?遊びとからだについて」

安倍大輔 (埼玉純真短期大学講師)

2時間目:「小さな子どもたちと作って歌って仲良くなろう」

関根久美(埼玉純真短期大学講師)

第2日 10月13日(土) 場所:埼玉純真短期大学

1時間目:「ひねって、はって、切ってビックリーメビウスの帯」

齋藤史夫(埼玉純真短期大学講師)

2時間目:「開けてビックリ玉手箱-科学と遊ぼう・音の不思議-」

橋本進(淑徳大学)

第3日 11月17日(十) 場所:埼玉純真短期大学

1・2時間目:「大宮アルディージャから学ぼう サッカーの楽しさ,面白さ」 大宮アルディージャのみなさん

第4日 12月8日(土) 場所:埼玉純真短期大学

1時間目:「みんなで作ろう 羽生名物 いがまんじゅう」

五月女拓也 (まつのや)

2時間目:発表・交流会の準備

• 修了式

*12月22日に大宮ソニックシティにおいて、埼玉県内の子ども大学が集合して発表交流事業が行われ、「子ども大学はにゅう」からも多くの受講生およびその保護者が参加した。

5. 成果

今年度「子ども大学はにゅうも」も2年目を迎え初年度以上に充実した内容をもつことが出来た。「はてな学」では音の不思議について淑徳大学より講師を招聘し音や声が実際に見える姿となり子どもたちの興味をひいた。また、メビウスの帯では、紙で出来た帯を切ると大きな四角形になったりハートになったりと、子どもたちの不思議そうな顔が印象的であった。「ふるさと学」では、羽生の名物であるいがまんじゅうを実際に自分たちで作り上げ食した。ふるさとの良さ(おいしさ)を感じる授業であった。「生き方学」では、大宮アルディージャの先生から講義と実技を教えていただき、特に練習試合では、プロのパス回しなどを実際に経験し興奮した様子であった。このほかにも充実した内容の授業が実施され、子どもたちはこれらの授業を通し大きく成長したようであった。

本事業は、「羽生市学び合いプロジェクト」の一環として開催されており、今後より一層地域に根ざした事業となるよう大切に育てていきたいと考えている。

参加した子ども及び保護者の感想(抜粋)

こども

- * メビウスの帯では、少しひねって貼っただけなので1つの輪になったり、2つの輪を真ん中で切っただけで1つの資格になったりするのがとても不思議でした。
- * サッカーを教わって、最初はあまり分からなかったけれど、どんどんわかってきて楽しくなってきました。また、大宮アルディージャの先生と試合をしたいです。
- * いつも食べているいがまんじゅうは、たくさんの手間がかかっていて、すべて手作業でやることが分かりました。今度いがまんじゅうを食べるときは、今日やったことを思い出しながら食べたいと思います。
- * 自分で作ったいがまんじゅうはとてもおいしかったです。家で作ってみて,みんなにプレゼントしたいです。
- * 交流発表会の準備では、はじめスムーズにいかなかったけれどリーダーが指示を出してくれたので、しっかりとやることが出来た。

保護者

- * 4年生で初めて「子ども大学」というものを知りました。ほかの学校の子どもたちと交流ができたようですし、申し込みをして本当に良かったと思っています。
- * 子ども大学に入学してたくさん楽しい学習をさせていただきありがとうございました。また、来年 も参加させていただきたいです。
- * 昨年参加させていただき、今回2回目です。毎回子どもたちにとって興味のある内容が多く楽しかったみたいです。ありがとうございました。

9/14

短期大学 こども大学に入学 ぶ楽しさ感じ 33 生

大学(藤田利久学長)で、「こ しも大学はにゅう」の入学式が 羽生市下岩瀬の埼玉純真短期 | 育館や教室で同大学講師による

年から実施している。 てようと、大学と市、青年会議 を育み、地域で子どもたちを育 は市内の小学4年~6年生計52 丁どもたちの学ぶ力や生きる力 元などが実行委員会を組織し昨 今年で2期目となる入学式に 「こども大学はにゅう」は、

"こども大学生。

たちは、体

て」と呼び掛けた。

ぶ楽しさをたくさん感じ取っ



む子どもたち(埼玉純真短期大学 大学のキャンパスで授業に取り組

> う」の講座を受講。学年や学校 たちがすぐに仲良くなって作業 だ」「作って歌って仲良くなろ が違う班ごとの作業で、子ども に取り組む姿も見られた。

バイザーの佐藤猛さんは「昨年 もたちの学びに協力していきた 実行委、地元企業とともに子ど に続き参加した子もいる。市や 埼玉純真短期大学シニアアド 一と話している。

年度は24校が開校を予定してい 初年度は県内で6校、昨年度は る。み、り、片馬玉(阿久戸佳代) 16校が実施。3年目を迎えた本 業は2010年度から始まり、 にした実践や体験活動を行う。 ンパスを会場に「ふるさと学 生き方学」「はてな学」を柱 同講座は12月までの毎月1 県教育局の「こども大学」事 計4日間を通して大学キャ

子ども大学が開校 埼玉純真短期大学でプ

校。市内の小学校高学年 子ども大学はにゅうが開 学で9月8日、第2期の 式が行われ、学生代表の一「はてな学」「生き方)児童52名が集まり入学 羽生の埼玉純真短期大 | 小澤俊貴君(南小6年) 学キャンパスを会場に 一ました。との講座は同大 学びたい」と抱負を述べ 一が「生活に生かせるよう



入学式で抱負を述べる小澤君

れています。